



市議会だより



うん



なん



新しい陣容による初議会

平成28年 12月定例会

● 議長あいさつ	2
● 臨時会・新議会構成	3
● 12月定例会報告	4
● 主な補正予算・議案の審議と結果	6
● 委員会報告	7
● 一般質問	9
● 中学生本会議傍聴記・編集後記	14

市議会の新しい体制が決まりました



副議長 山崎正幸



議長 藤原信宏

ごあいさつ

雲南市議会議長 藤原信宏

昨年11月の改選により新しい議会体制となりました。

地方分権の進展とともに自治体の自己決定、自己責任の範囲は拡大し、二元代表制の一翼を担う議決機関として議会の役割はこれまで以上に重要となつていきます。こうした中、議会基本条例を制定し、「市民に開かれた議会、信頼される議会」を目指して議会の権能強化とそのための方質の向上に向け、議会改革に取り組んでいるところです。これまでも増して積極的に地域に出かけ、市民からの直接の声を聴くことにより的確に行政需要を把握し、施策に反映していくことで、地域の振興と市民福祉の向上に努めてまいります。

さて、昨年は4月に鉄の道文化圏推進

協議会を構成する雲南市・安来市・奥出雲町で申請した「出雲國たたら風土記」が、文化庁の日本遺産に認定されました。

また、11月には中心市街地活性化基本計画が、内閣府より認定されました。

雲南市のまちづくりに向け、たたらに育まれたこの圏域の魅力を積極的に発信するとともに、中心市街地の形成はもとより、各地域の有形無形の財産を整備活用し、交流人口の拡大や地域の活性化により、全市の均衡ある発展を図ってまいります。

合併特例債の活用期限と交付税一本算定の完了も近づいております。市議会としても、執行部と時に対峙し、時には思いを一つにして発展的、効率的な財政運営に努力してまいりますので、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第2回臨時会

11月28日に開催された第2回臨時会で、正副議長選挙を行い、議長に藤原信宏議員を、副議長に山崎正幸議員を選出しました。

その後、議長を除く21名の議員が総務、教育民生、産業建設の3つの常任委員会のいずれかに所属しました。あわせて議会運営委員会委員を決定しました。

また、予算審査特別委員会、広報聴特別委員会及び、島根原子力発電対策特別委員会の設置と委員の選出を行い、新たな市議会の構成が決定しました。また雲南広域連合議会議員及び雲南市・飯南町事務組合議会議員の選出を行いました。

臨時会の追加日程に同意案件が11件、報告が2件上程され、同意案件については、いずれも賛成多数で原案のとおり同意しました。

新しい議会構成

◎…委員長
○…副委員長

議長

藤原信宏

副議長

山崎正幸

監査委員

堀江治之

議会運営委員会

◎深田徳夫

○周藤強

松林孝之

周藤正志

西村雄一郎

安井誉

小林眞二

総務常任委員会

◎小林眞二

○松林孝之

中村辰眞

細木照子

土江良治

堀江治之

山崎正幸

教育民生常任委員会

◎西村雄一郎

○白築俊幸

上代和美

中林孝

藤原政文

細田実

周藤強

産業建設常任委員会

◎周藤正志

○原祐二

矢壁正弘

佐藤隆司

安井誉

堀江眞

深田徳夫

議会広報聴特別委員会

◎矢壁正弘

○中村辰眞

中林孝

松林孝之

原祐二

白築俊幸

周藤強

山崎正幸

島根原子力発電対策特別委員会

◎佐藤隆司

○上代和美

土江良治

細田実

堀江眞

小林眞二

山崎正幸

予算審査特別委員会

◎安井誉

○中村辰眞

議長を除く全員

事務組合等への選出議員

雲南広域連合議会議員

上代和美

矢壁正弘

西村雄一郎

土江良治

堀江眞

山崎正幸

藤原信宏

雲南市・飯南町事務組合議会議員

白築俊幸

細木照子

安井誉

細田実

山崎正幸

藤原信宏

補正予算可決

● 公有林整備事業



● 地域介護・福祉空間整備事業



平成28年12月定例会は、12月9日から26日まで、18日間の会期で開催しました。雲南市高齢者等のバス・タクシー利用料金の助成に関する条例の制定や、一般会計及び特別会計等の補正予算など、上程された31件の議案を慎重に審議した結果、全議案とも、原案のとおり可決しました。

一般会計 4億7,500万円の (補正後総額 294億3,002万円)

特別会計等の補正予算

会計名		補正額	補正後総額
国民健康保険事業特別会計		1,715万円	54億3,696万円
簡易水道事業特別会計		7,771万円	8億3,686万円
生活排水処理事業特別会計		120万円	28億4,709万円
水道事業会計	収益的支出	592万円	8億6,439万円
	資本的支出	1億606万円	8億9,580万円
工業用水道事業会計	収益的支出	296万円	7,141万円
病院事業会計	収益的支出	△3,847万円	43億2,833万円
	資本的支出	1,491万円	26億917万円



主な12月補正予算

内 容	補正額
電算総務管理事業（市役所の情報システム強靱化対策の実施）	2,800万円
子ども医療費助成事業（小・中学生の医療費の増）	1,440万円
地籍調査事業（大東町塩田工区・篠淵工区に係る調査の追加）	6,698万円
臨時福祉給付金（経済対策分）給付事業（新規）（対象者に一人当たり15,000円を支給）	13,827万円
高齢者等タクシー利用料金助成事業（利用者の見込み増）	629万円
介護サービス提供支援事業（新規）（福祉車両の購入に対する一部助成）	970万円
地域介護・福祉空間整備事業（高齢者施設等の防犯対策強化に対する補助）	630万円
ドクターヘリ専用離着陸場整備事業（候補地の再検討のための減）	△100万円
休日診療事業（新規）（H29年1月から市立病院において休日診療開始）	54万円
小学校特別支援学級設置事業（H29年度開設に伴う準備費用（西・斐伊・吉田小学校））	618万円
教育委員会事務局総務管理事業（新規）（学校情報ネットワークセキュリティ強靱化対策の実施）	5,903万円
ブランド米推進作付け支援事業（「プレミアムつや姫」作付け目標に対する実績の減）	△396万円
全国和牛能力共進会対策事業（「全共雲南出品対策協議会」への追加支援）	145万円
県有種雄牛産子造成奨励事業（和牛の導入・保留に対する追加支援）	300万円
公有林整備事業（荒廃林等再生整備事業分の追加等）	330万円
道路維持補修事業（市内53か所の修繕費）	1,500万円
高速道路整備関連事業（加茂スマートIC設置計画策定に係る業務内容の追加）	400万円
新市交流センター移転事業（新規）（新市交流センター移転に伴う施設修繕、備品整備等）	484万円

議案の審議と結果

第2回 臨時会

同 意	採決結果	採決状況
雲南市副市長の選任	原案同意	賛成多数
雲南市教育委員会教育長の任命	原案同意	賛成多数
雲南市教育委員会委員の任命	原案同意	賛成多数
雲南市監査委員の選任（2件）	原案同意	賛成多数
雲南市公平委員会委員の選任（3件）	原案同意	賛成多数
雲南市固定資産評価審査委員会委員の選任（3件）	原案同意	賛成多数

報 告
議会の委任による専決処分報告（2件）

12月定例会

条 例	採決結果	採決状況
雲南市交流センター条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市議会の議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正	可決	賛成多数
雲南市特別職報酬等審議会条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市特別職の職員の給与等に関する条例及び旧雲南市教育長の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正	可決	賛成多数
雲南市職員の給与に関する条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市高齢者等のバス・タクシー利用料金の助成に関する条例の正定	可決	全会一致
雲南市簡易水道事業等を雲南市水道事業に統合することに伴う関係条例の整理に関する条例の制定	可決	賛成多数
雲南市水道事業給水条例の一部改正	可決	全会一致
雲南市尾崎専用水道条例の一部改正	可決	賛成多数
雲南市農業委員会の委員及び農地利用適正化推進委員の定数を定める条例の制定	可決	全会一致
雲南市教育委員会委員定数条例の一部改正	可決	全会一致

補 正 予 算	採決結果	採決状況
一般会計（第4号）	可決	賛成多数
国民健康保険事業特別会計（第3号）	可決	全会一致
簡易水道事業特別会計（第3号）	可決	全会一致
生活排水処理事業特別会計（第3号）	可決	全会一致
水道事業会計（第3号）	可決	全会一致
工業用水道事業（第2号）	可決	全会一致
病院事業会計（第2号）	可決	全会一致

一 般 事 件	採決結果	採決状況
公の施設の指定管理者の指定（9件）	可決	全会一致

諮 問	採決結果	採決状況
人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて（2件）	適任	全会一致

委員会報告

総務常任委員会

委員長 小林眞二

(議案の審査)

委員会に付託及び委託された9件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

(条例等の審査状況)

・雲南市交流センター条例の一部改正

社会福祉協議会木次支部にある新市交流センターが狭隘なため、木次総合センター二階の一部に、平成29年度から移転することに伴う改正です。

移転後の同センターの駐車場及び管理等について質しました。

駐車場案内等は看板表示等で対応し、管理は、セキュリティを含め今後詰めるとの答弁でした。総合センターと交流センターは施設が共有になるため、しっかりとした対応策を図るよう求めました。



総務常任委員会

・下布施農村体験施設の指定管理

指定管理を受託する雲南TRCの経営状況、公募方法、生徒数などについて質しました。

馬とのふれあい体験や放課後等のデイサービス、高校卒業の資格が取れる通信教育等の事業を行っている。現在は市、

県の補助金を受け運営をしているが4年目ぐらいからの黒字化を目指している。公募方法については、専門的な事業であ

り、これまでの実績から非公募とした。生徒数は全国から10人が在籍している。さくらおろち湖周辺の癒される自然環境の中で、子どもたちが育つ新しい施設として今後も見守っていききたいとの答弁でした。

(主な予算の審査状況)

・地籍調査事業6,697万5千円の増額について、今後の見通しを質しました。

国の経済対策により増額補正するもので、大東町塩田工区及び篠淵工区が対象地域である。これにより本市全体の進捗状況は90%となり、完了予定は平成34年予定との答弁でした。

・総務管理事業の300万円の増額は本庁舎内の消耗品費の経費削減を目的とし試験的に一元管理されたが効果について質しました。

平成27年度の本庁実績は2,450万円であったが、削減目標として

平成28年度当初予算では2,062万円とした。使用する機種の単価の違いもあり、効果が出な

教育民生常任委員会

委員長 西村雄一郎

(議案の審査)

委員会に付託及び委託された8件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

(条例等の審査状況)

・雲南市高齢者等のバス・タクシー利用料金の助成に関する条例

現行の高齢者等タクシー利用料金助成事業実施要綱が、平成29年3月末までとなっており、既存の市民バス運行に関する条例の一部を改正し、一本化を図るものです。

これまでの実施要綱は、高齢者等の移動手段の確保を目的とするものでした。しかし、運転免許保有者で健康な者でも制度を利用できるため、議会や市民からの指摘が

かった。平成29年度は各課にもどし、コスト意識をもって管理することにしたとの答弁でした。



教育民生常任委員会

ありました。これを受け、普通自動車等運転免許を持っていることが要件に加えられました。しかし、免許はあっても病気で運転できない人への配慮が必要ではないか、との問いに対し、今後、市長が特に認める場

合を規則で示すとの答弁でした。また、周知が多分でない知らない市民も多い。今後の周知の方法はとの問いに、平成29年1月から、市報、ケーブルテレビ等により周知徹底する。さらに、施行に伴い、高齢者等の運転免許自主返納者への支援はどうするのかとの問いに、当該支援事業は継続するとの答弁がありました。

(主な予算の審査状況)

・日曜日（連休を除く）に休日診療を市立病院にて開設するための54万円が提案されました。市内のどこからでも利用しやすくするためには、市の中心部に設けたらどうかとの問いに対し、医師会等との協議の結果であるとの答弁がありました。

・障がい児等保育対策事業の295万円の減額について、保育に支障が出ないかとの問いに、保育士を追加配置する予定であったが、その必要がな

くなったため、支障はないとの答弁でした。

・ドクターヘリ専用離着陸場整備事業の調査委託費100万円の減額について、今後の考え方を質問しました。候補地の再検討を行うものであり、専

用離着陸場に病院との距離の定めはない。また、市立病院屋上へのヘリポート設置は計画していない。今後、こうした観点に立って市立病院と綿密な打合せを行っていくとの答弁がありました。

産業建設常任委員会

委員長 周藤 正志

(議案の審査)

委員会に付託及び委託された15件の議案について審査し、全て可決すべきものと決定しました。

(条例等の審査状況)

・雲南市水道事業給水条例の一部を改正する条例

水道料金の改定については、平成29年から34年までの5年間を算定期間とし、平成28年2月に水道料金増の改定の原案が提示されました。水道事業に関する審議会へ諮問され、6月に答申がありました。

それに対し市政懇談会での意見を取り入れ、議

会からも「市民の負担を軽減するため市の補助を拡大すること。特に大半を占める小口径（13mm、20mm）については、答申案よりも更に配慮すること」との提言を行いました。

これらを踏まえた方針の内容は、収支を黒字ぎりぎりまで見直し、小口径の基本料金と75mm以下の従量料金を抑えるため、市の補助金を1,700万円追加したものです。

水道事業の現状は、人口減少等に伴う料金収入の減少が続く中にある



産業建設常任委員会

費削減の努力が必要との意見を附しました。

・雲南市農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例

この条例は、法改正に伴う新しい農業委員会制度へ移行するもので、農業委員は公選制から議会の同意を得て、市長が任命し、定数は政令に基づく上限の19名に、現場活動を行う推進委員は、現農業委員と同数の37名とする内容です。

選出方法はとの問いに、ともに公募と地区推薦を行い、農業委員については、地域がかたよらないように評価委員会を設け決定し、推進委員は各町割り当てにより農業委員会が決定するとのことでした。

地域自主組織に説明し、推薦依頼するとしているが、これまでの各町の選出方法等を踏まえて対処すべきと指摘しました。

一般質問

一般質問のページは質問者本人の責任のもとに原稿を掲載しました。また質問項目すべてを載せているものではありません。

13名の議員がズバリ市長に問う

市長4期目の課題と対応策は



小林 眞二

問 速水市長4期目の課題と対応策は。来年度予算編成に向けた所見は。

答 人口の社会増を目指し安全・安心、活力と賑わい、健康長寿・生涯現役が全うできる3つのまちづくりの課題解決に取り組みたい。そのため、定住基盤の整備、人材の育成・確保が必要と捉えている。

平成29年度当初予算は290億円程度と考えて

いる。

地方交付税の見通しが不透明で減額も予想されることから、財政調整基金・減債基金からの繰入れも想定している。

問 加茂町にトライアルの出店を聞く。その情報及び地域や中心市街地活性化計画にどのように影響すると考えるのか。

答 出店計画は事実であり、建坪1,700坪で24時間営業の大規模スーパーである。中心市街地活性化事業、小売業者、産地直売振興に影響がでると認識している。

問 加茂町内デマンドタクシー具体化は。

答 来年、公共交通計画において真摯に検討する。

無投票当選にあたっての見解は



佐藤 隆司

問 3つの課題の一つである安心・安全なまちづくりは、危機管理の重要性が増してきているが市長の認識は。

答 危機管理は、行政運営上、最大の政策課題と理解している。

問 活力と賑わいのあるまちづくりは、身近な代表を選ぶ市長、市議会議員選挙はともに無投票となった。活力と賑わいのある持続可能なまちづくりを目指す上で市長の見解を。

答 無投票による当選は、これまでの4年間の市民の評価と受け止めており、その負託に応えるべく邁進していきたい。

問 健康長寿・生涯現役

を全うできるまちづくりは、くにびき国体開催から半世紀を迎える2032年までに、県に対し、開催誘致を積極的に働きかけることが必要と考えるが見解は。

答 大会の誘致効果はかなり大きなものがあり、市長会等でその誘致について取り上げたい。

高速道路活用による企業誘致は



堀江 治之

問 高速道（尾道松江線）の活用による企業誘致は。

答 現行の製造業への優遇制度を、IT企業、宿泊業等へ拡大。さらに固定資産税の優遇制度、雇用の確保、用地取得助成等について、庁内で詰めの作業を行っている。

問 地域自主組織から、市職員や専従職員の配置の要望があるが所見は。

答 専従職員の配置は考えていない。支援する形で総合センターに配置し対応する。

問 中心市街地活性化事業計画における15店舗の出店者の確保は可能か。

答 出店の応募締切が12月16日であり、年明けに選考会を開く。1月下旬には出店数が明らかになると思う。

問 空き家対策計画の策定状況は。

答 基本計画を今年度中に策定する。

問 市内の介護施設と、その職員数の現状は。

答 施設については、計画的に整備が行なわれているが、職員についてはほとんどの施設で不足している。充足している施設でも数年後には不足が懸念される。

高齢運転者の事故 多発防止対策を



細木 照子

問 高齢運転者による痛ましい事故が度々ニュースに出る。重大な社会問題である。買い物、通院など中山間地では車の運転なくして生活ができない。しかし、高齢になると誰しも視力の低下や、機敏な動作ができなくなり、事故も起こしやすくなる。運転免許証の自主返納を勧めるためにも、車のない生活の支援体制が重要である。本市の見解は。

答 運転に不安のある方の運転免許証の自主返納を引き続き推進する。返納された方には、優待回数乗車券による移動支援を行う。歩行者の面からも対策が必要で、反射材

の着用推進を図る。警察と連携しながら取り組み。

問 農協改革について、国の規制改革推進会議の提言は、民主主義を吹き飛ばすような高圧的なものだ。本市の所見は。

答 農協改革は、農協みずから出されてしかるべきものと思っている。提言により農業が衰退するようなら、国に声を出していく。

除雪作業者の減少 作業への影響は



矢壁 正弘

問 本市の除雪作業を担ってきた建設業者が減少している。除雪作業への影響をどう捉えているか。

答 建設業協会において除雪エリアをカバーする

ための調整をしている。影響が出ないよう関係者と協力体制の構築を図る。



市道の除雪状況

問 市内の道路、公共施設等の危険箇所をスマートフォンを活用し、誰でも情報提供できる制度があるが運用する考えはなにか。

答 現在の対応で特段の問題はないので、現状の方法で対処する。今後、他自治体の事例等を踏まえ参考にしたい。

問 高齢者ドライバーによる重大事故が相次いで発生している。高齢者の

運転免許自主返納について支援を拡充しては。

答 平成26年度に制度を拡充したので考えはない。今後、総合的な視点から施策を検討していきたい。

問 13歳以下のインフルエンザワクチン予防接種2回のうち1回分を補助できないか。

答 高齢者以外の予防接種について、費用の補助は考えていない。総合的な視点から子育て環境の充実に力を入れていく。

30・10運動で 食品ロス削減を



中村 辰真

問 食品ロス削減に向けての取り組みは、官民一体となって進めることが大切である。家庭での食品在庫の適切な管理や、

食材の有効活用の取り組みをはじめ、飲食店で残さずに食べる運動や、持ち帰り運動の展開が必要であると考えるが見解は。

答 大切な食べ物を無駄なく消費し、食品ロスを減らすこと。これはごみの減量化などの環境面や、家計の面においても有効であると考える。食品ロス削減についても、消費生活に大きく係わる問題であることから、今後その取り組みに向け支援を考える。

問 他市では会席での食べ残しを減らすため、乾杯後の30分と終了前の10分は自席で食事を楽しむ「残さず食べよう、30・10運動」に取り組んでいる。本市でも取り組んでいるかどうか、

答 資源を大切にすること、食べ物を作ってくださった方への感謝の心を大切にすることも、本市でも30・10運動を行う事が大切であると思う。

一般質問

観光と定住の 具体戦略は



松林 孝之

問 映画「たたら侍」のロケセット、たたら村には公費3千万円を投じた。経済効果・PR効果は。

答 経済効果はハード整備をした事業者や、納業者に対し効果があつた。PR効果は、金額では言い表せない程であつた。

問 PR効果の検証が必要だが、いつ示すのか。

答 地域全体への効果は実感している。公開に合わせ具体的に測定する。

問 セットは解体が得策と考えるが撤去までの間、最大限活用すべきでは。

答 制作会社にとって、本市にとっても、最

良の活用となるよう努める。

問 映画に投じた費用と人脈を活用した本物による観光施策を展開しては。

答 ロケ地に選定されたことは、千載一遇のチャンスであり、たたら文化の日本遺産認定や瑞風周遊など、今の追い風を活かす。

問 人口の社会増に待機児童はあつてはならない。放課後児童対策と合わせて具体策の展開を。

答 こども園化の推進と、民間保育所の建設を促す。放課後児童クラブは、地域性を考慮し、整備の必要性を検討する。

木戸道の整備は



白築 俊幸

問 木戸道には、市道と

私道があり、市道は、市で整備されるが、私道は、その所有者が行うものとされている。

しかし、私道の木戸道で、狭い、傾斜がきつい等で、だんだんタクシーやディサービスの利用時に、不自由している方が多い。整備するにしても多額の費用が掛かるが、何か良い方法はないか。

答 こうした状況は、現在、44件の報告を頂いているが、私道の場合、いろいろな事情があり、万能薬のような制度は作り得ない。現状では、道路まで車いすで送迎している在宅サービス事業所もある。今後は、私道整備の対処方法について、建設部内に相談窓口を設置し、それを基に、他部局との連携を保ちながら、最適メニューを提案する仕組みを構築したい。

問 老朽化して危険な空き家に対して、どう取り組んでいくのか。

答 空き家対策法にもあ

るように、所有者で適切な管理をしていただくことが重要であると考えている。

木次線の存続と 活性化対策



中林 孝

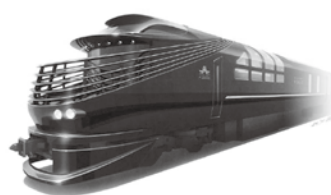
問 木次線は地域住民の交通手段として重要な社会インフラである。存続に向けた市長の決意は。

答 地域の衰退に歯止めをかけ、活性化の起爆剤になり得るので存続させなければならぬと強く思っている。

問 活性化のためトラック列車の更新や、旧型車両を使ったイベント列車も効果が期待できる。TWILIGHT EXPRESS（トワイライトエクスプレス）瑞風の乗客もバスばかりでなく、木次線の

旅を楽しんでもらうてはどうか。

答 関係機関に提案する。雲南の魅力を活かして貫く実績作りから取り組む。



TWILIGHT EXPRESS 瑞風

問 建設業者は地域経済への影響のほか、冬季の除雪作業、災害時の緊急支援などの役割もある。事業存続に向けた対策は。

答 仕事量や企業数は減少傾向にあるが、建設業者に頑張ってもらえるような様々な施策を講じていく考えである。

問 市道で落石などの危険箇所とその対策は。

答 28カ所認識している。現在、年3〜4カ所しか対策ができない。中山間地の現状を国や県に訴えている。

『就学援助制度』
一歩前進



上代 和美

問 入学時の準備には多くの出費がかかり、子育て世代の大変な負担になっている。家計が厳しい家庭には就学援助制度があるが、入学準備金の最も必要な2月から3月に支給できないか。

答 課題はあるが、全力で頑張っけて検討する。

問 今回の水道料金改定は、国の方針により、平成29年度から簡易水道事業が水道事業に事業統合されることに伴うものである。生活困窮者にとっては100円、200円の値上げといえども重い負担になる。福祉施策的な観点から、新たに基本料金について減免制度を導入する考えはないか。

か。また、支払い能力がないと確認された方には給水を停止するのか。

答 基本料金の減免制度導入は現在考えていない。支払い能力のない方への給水停止の執行はしない。生活困窮者への支援は、生活困窮者自立支援法に基づいて一元的に相談し支援していく。その他の質問

- ・ 中心市街地活性化事業
- ・ 国保料軽減

周辺地域整備が
重要だ



細田 実

問 中山間地など周辺地域の整備なくして市全体の人口の社会増はないと考える。このたび中心市街地活性化基本計画が認定されたが、中心市街地活性化は周辺地域からの

購買力、入り込み客なくしては成り立たない。周辺地域整備についての考えは。



中心市街地活性化エリア

答 周辺部の発展なくして本市の一体的な発展はないと考えている。中心市街地活性化計画は、人口の社会増を目指す上のダム効果を狙ったものだ。中心部と周辺を結ぶ道路の整備、周辺地域の活性化が必要だ。知恵と工夫を凝らして周辺対策に取り組んでいく。

問 市長は所信表明で、原発に頼らない社会を目指すことを掲げられたが時宜を得た表明だ。原発に頼らないまちづくりへの決意と道筋について市長の考えは。

答 自然エネルギーの活用について国を挙げて取り組んでいくこと。原発の安全性を求めると同時に、安全協定の締結を求め、よりパワーアップして取り組む。

課題解決に向け
情報共有が必要



藤原 政文

問 市民との協働のもと、チーム雲南による人口減少という最重要課題に立ち向うには、情報の共有が必要だ。徹底した情報公開に対する姿勢は。

答 市政懇談会、市報、インターネットなどで積極的に情報発信をしている。引き続き情報公開を徹底し、情報共有を図る。

問 清嵐荘の問題で、議会から執行部に対し異例の申し入れがあったと聞いた。議会との関係について市長の姿勢は。

答 申し入れを深く受けとめ二元代表制の一翼を担う議会と執行部は、市政運営の両輪であること生かして行く。

問 定住するために必要不可欠な医療・介護において地域包括ケアシステムの課題と方向性は。

答 医療機関との連携強化、健康づくり、介護予防の必要性を住民に周知することや、住民主体の生活支援の仕組みづくりが必要だ。地域包括ケアシステム推進会議で検討する。

その他の質問

- ・ 教育・子育て
- ・ 産業振興・雇用

一般質問

問 永井隆記念館は、現在地で建て替えるとして、基本構想を作成中である。現状を引き継ぐだけの建て替えではなく、平和教育の拠点であることはもとより、より拡大したコンセプトをもつべきだ。教育のまち三刀屋にふさわしい生涯学習・教育の拠点とし、地域の人や小中高生が常に入出するよう図書室や学習室、公営塾、カルチャーセンター的機能をもった施設としてはどうか。



周藤 正志

永井隆記念館を生涯学習拠点に



改築予定の永井隆記念館

答 これまで築かれてきた環境を、整備の基本的なコンセプトに活かし、提言は参考にする。

については、基本計画を策定中である。単なる建て替えではなく、斐伊川水辺の楽校や地域とのつながりを活かし、先を見通すしっかりとしたコンセプトが必要だ。例えば、こども園内に高齢者と子ども達がふれあえる場所を作ったかどうか。

議会報告会について

議会改革の一環として、開かれた議会を目指し、平成21年9月定例会後から「議会報告会」を開催していました。

平成26年12月定例会において、議会基本条例の基に広報広聴特別委員会を設置し、広聴活動も強化していくこととなりました。これにより、「議会報告会」の内容も衣替えし、これまでは、定例会の報告に重点を置いていましたが、報告はもとより市民の皆様への意見等に耳を傾け議会に持ち帰り、議論・検討し、市政・議会活動に反映させることになりました。

今回、新議会体制により、下表のメンバーで各地域にうかがいます。よりたくさんの皆様のご参加をたまわりますよう、よろしくお申し込み申し上げます。

議会報告会 担当表

会場	大 東	加 茂	木 次	三 刀 屋	吉田・掛合
責任者	藤原 信宏	山崎 正幸	小林 眞二	周藤 正志	西村 雄一郎
総 務	松林 孝之	土江 良治	細木 照子	堀江 治之	中村 辰眞
教育民生	中林 孝	藤原 政文	白築 俊幸	細田 実	上代 和美
	周藤 強				
産業建設	安井 誉	原 祐二	堀江 眞	矢壁 正弘	佐藤 隆司
			深田 徳夫		

※各議員は自分の出身町の担当はしない。

木次中学校3年生が本会議を傍聴

12月13日、14日に3年生が本会議を傍聴しました。生徒の感想文を一部ご紹介いたします。(原文のまま掲載)

内田 壮太さん

たたら村やプレミアム商品券など、身近な内容だったので、大変興味深く傍聴することができました。選挙で選ばれた人達によって、こうやって市を動かしていくのだとわかりました。

岡田 麻帆さん

普段生活していて当たり前のように思っていることでも、議会で細かい所まで話し合われていることがわかりました。私達の知らない所で深い議論があるのだと思いました。

駿馬 香穂さん

市を背負っている人たちの真剣な後ろ姿を見てみると、自分の背筋も伸びた気がしました。自分の意思をもって立候補した人たちを見て、私も自信をもった人になりたいと思いました。

飯塚 涼雅さん

小・中学生の教育について話し合っておられ、議会の話し合いのおかげで、毎日充実した学校生活が送れているのだと感じました。議会の雰囲気を感じる事ができてよかったです。

鳥谷 野乃華さん

議員さんの発言時間が三十分で区切られていた所が、学校と違って新鮮でした。議員の意見は市民の意見だと思うので、市長さんなどの意見を直接聞いたのはよい経験になりました。

毛利 涼花さん

一つの問題について、原因や根拠など詳しく話しておられてすごいと思いました。初めて議会を見て、議員一人一人が雲南市について意見をもっておられることがよくわかりました。

山根 若菜さん

傍聴しながら、私が議員なら、どんなことを言おうかと考えていました。市報やFacebookでは雲南市のことが分かり面白いです。中高生の意見も聞いてもらえたら嬉しいです。

編集後記

今年の正月は好天に恵まれ、穏やかな新年を迎えることができました。

昨年は4月の熊本地震に始まり、鳥取県中部地震、茨城県北部地震が発生し、これまで以上に防災対策を考えさせられた一年でした。

本市においては、中心市街地活性化基本計画が国に認定され、まちづくりに活発な展開が期待されます。

今年(西暦)は、西のつく年は商売繁盛に繋がると言われ、運氣もお客も取り込めると言われています。日本遺産・中心市街地活性化事業・豪華寝台列車「瑞風」効果により本市の賑わいを期待します。

最後になりましたが、市議会うんなんNo.46号は編集内容の確認に時間を要したため、2月の配布となりました。皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、どうぞご一読ください。

ご意見

お待ちしております

議会活動、議会広報、議会ホームページについてご意見やご感想などお気づきの点をお寄せください。
(回答が必要な場合は連絡先を明記してください)

雲南市議会事務局

電話：(0854) 40-1004

FAX：(0854) 40-1009

MAIL：gikai@city.unnan.shimane.jp



議会広報広聴特別委員会